

令和4年度 中町北小学校 学校評価シート 2023.3.9

学校教育目標
人権尊重の心を持ち
仲間とともに 意欲的に学ぶ
ふるさと大好き 中北っ子の育成

・4.0 → 100%達成(黄)
・3.6 → 90%達成(黄)
・2.8 → 70%達成(青)

<学校自己評価>
A:達成している
B:概ね達成している
C:あまり達成していない
D:達成していない

本年度の重点目標

①確かな学力の育成・・・「中北学力向上プラン」「中北スタンダード」の活用 ②豊かな心の育成・・・「命と人権」の尊重を根底に、いじめ防止基本方針をもとに、いじめの未然防止・早期発見・早期対応 ③健やかな体の育成・・・「早寝・早起き・朝ご飯」、「基本的な生活習慣」の確立 ④信頼される開かれた学校づくり・・・PDCAサイクルによる学校評価の活用 ⑤安全・安心な学校づくり・・・学校防災体制の充実 ⑥働きやすい職場環境づくり・・・「学校の働き方改革」の推進による子どもと向き合う時間の確保

	評価の領域	項目	教職員	児童	保護者	総合評価	アンケート分析 (R4)		学校関係者評価 (R4)	
							○：考察 (今年度の取組と分析)	◎：来年度へ向けての改善案 (方策)	コメント	
1 2 3	ア	学校組織・運営	教育目標の推進 組織・チーム	3.9(±0)			B	○学校教育目標を教職員が共有し、研究推進委員会や生徒指導委員会、または担当ごとに目標の達成のために創意工夫を行うことができた。また、1年を通して継続した取組や連携した取組を教職員チームで推進することができた。 ○校務分掌については、年間計画を立て教育目標の具現化を図ることができた。一人一人の得意とする専門性と同僚性を生かした分掌・職務の遂行ができた。 ○勤務時間の適正化については、昨年度に比べて勤務時間が60時間程度増加している。昨年度は、コロナにより自粛したことでも、本年度は実施したことにより、純粋に仕事が増大しているところがある。	◎免許更新制の廃止により、校外研修計画と実施において、令和5年度は変化すると考える。これまでの教科担当者による専門性だけでなく、多様な研修機会を選択しなければいけないなど、変化する年になる。負担感の増加につながらないように行う必要がある。 ◎職員会議や委員会など、時間の短縮を進めるとともに、学校行事や校外研修についても再度検討していく。 ◎定時退勤日を設定しているが、日々定時退勤が当然である。突発的な生徒指導、保護者対応などは別として、「困っていることはない?」と聞き合える同僚性を最大限に生かすチームづくりを進めたい。	・勤務時間が60時間増加しているのは、なぜか。 →コロナ対策、行事や出張がコロナ前に戻りつつあることへの負担、保護者対応や事務量の増加に伴い、勤務時間が増加している。 ・有休消化率はどうか。 →なかなか学期中は年休をとるのが難しい。職務の特性上、在宅勤務は難しい。 ・外部との連携で、時間をとられているようなことはないか。 →それは今のところあまりない。
			校務分掌の適切な分担と 職務の遂行	3.4(-0.1)						
			勤務時間の適正化	2.8(-0.3)						
4	イ	学級経営	学級経営案・その他の経営案	3.2(+0.2)			B	○経営案を作成したことで、見通しを持って取り組めた。 ○学級経営交流会を持ち、互いの方針を情報交換したので、児童への指導においても生かすことができた。	◎学級経営案を作成し、見直しをもって学級経営に取り組む。 ◎学級経営交流会を行う。単学級なので、年度途中に情報交換をし、実践に生かしていく。また、年度末には1年間の学級経営について振り返り、全体で共有する。	・学級目標やめざす子どもの姿、そのめざす姿を達成するための具体的な取組などについて、丁寧に経営案をつくっている事が、落ち着いた学級経営につながっている。 ・今年度の取組を生かし、来年度もがんばってもらいたい。
5 6 7 8	ウ	特別支援 教育	専門家との連携 対象児童への指導・支援の改善	3.0(-0.3)			B	○校内研修会に外部の講師を招聘し、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童の支援について理解を深めることができた。 ○特別支援学級担任と交流学級担任が連携し、児童の実態に合わせ柔軟に教育課程を組むことができた。	◎北はりま特別支援学校等外部の専門機関と連携して、児童の障害特性に起因する困り感等を正確に把握し、効果的な支援を行っていく。 ◎引き続き校内研修会に講師を招聘し、教員の専門性を高めていく。 ◎全教職員の情報交換の場を設け、共通理解のもと児童の支援にあたるようにする。	・特性のある子への対応は難しいと思う。複数で対応されていることや、外部と連携されていることはありがたい。今後も継続してもらいたい。 ・職員室でのコミュニケーションを密にとっていたら、先生方同士の横のつながりを大切にしていきたい。
			分かる授業づくり	3.7(+0.3)	3.6(+0.1)	3.6(+0.1)				
	基礎基本の学力の定着	3.4(+0.5)								
		家庭学習記録票の活用 家庭学習の習慣化	3.7(+0.2)	3.8(+0.2)	3.2(±0)					
9 10 11	オ	健康教育	食育の推進 児童への指導、保護者への啓発 アレルギー対応	3.1(+0.4)	3.8(+0.7) ※	3.7(+0.8) ※	A	○健康委員会の児童とともに、給食時の服装や片付けの仕方など、衛生面に気をつけるよう声かけができた。 ○コロナ禍で、今年度も給食試食会が実施できず、保護者への啓発が難しかった。 ○コロナウイルス感染対策を取りながら、どのような活動ができるのか考えながら体力向上の取組を行うことができた。 ○体育的行事において、活動を行う価値とめあてを明確にすることで、教員も子どももたたく行事をこなすだけでなく、意義のある活動を行うことができた。	◎給食センターと連携し、学校だけでなく家庭でもできる食育の取組を考えていきたい。 ◎健康委員会の児童とともに、給食時の衛生面に関する指導を継続していく。 ◎感染症対策や熱中症対策など、マンネリ化しないよう意識して、健康安全対策を行っていく。 ◎活動を行う価値とめあてを明確にし、「なぜその活動を行うのか」「活動を通して子どもたちのどのような成長を期待するのか」ということを教員が共通理解をした上で、様々な体育的行事に取り組んでいきたい。	・精一杯のことをしていただいている。 ・給食センターの作成した動画を児童だけでなく、保護者にも見てもらいたい。 ・体育的行事については、「意義」と「どのような成長を期待するのか」を大切にされているところがとても良い。今後もその思いを子ども達と共有しながら取組を進めてほしい。
			健康安全対策	3.6(-0.3)						
		運動能力・ 体力向上の取組の充実	3.8(+0.5)	3.6(+0.1)	3.4(+0.1)					
12 13 14	カ	図書館教育	児童の読書量増進の 指導や手立て	3.6(+0.3)	3.1(+0.3)	2.4(-0.1)	A	○読み聞かせ(教師、図書委員)を行い、様々な本に触れるきっかけづくりとした。 ○2学期より、全ての学年に図書時間を設けることで、全児童が図書室に行き、本を手にとることができた。 ○多可町図書館との連携により、学習とリンクした本を設置できている。隙間時間に本を手にとる児童が増えている。 ○家庭における読書活動推進のためには、保護者への啓発が必要不可欠である。継続的な啓発が望まれる。	◎啓発活動を行っていく。(図書委員会によるスタンブラリー、読み聞かせ、本の紹介) ◎教師による読み聞かせの機会を、来年度も設定したい。 ◎図書館や図書アドバイザー、図書ボランティアの方々との連携を継続していく。 ◎図書室の環境調整を行うとともに、各教室で本が読めるよう読書環境作りを意識する。 ◎図書室の開放と、それを継続させるために継続的に指導を行っていく。	・子ども達の読書量増進については、何でもかんでも学校に言うのではなく、保護者も家でしっかりと向き合い取り組むべきだ。 ・親子読書や保護者による読み聞かせなど、保護者も一緒になってできる取組があるといい。 ・町の図書館も活用してもらえるといい。(見学など) ・図書館ボランティアとして、学校で子ども達とふれあえることが楽しく、活動の励みとなっている。
			年間を通した 学校行事での成果	3.9(+0.4)	3.6(+0.2)	3.4(-0.1)				
		児童会・委員会活動	3.2(-0.3)	3.4(-0.1)						
15 16 17 18	ク	生活指導	いじめ防止の徹底	3.9(+0.4)	3.7(±0)	3.3(±0)	A	○いじめや問題行動については、複数対応や迅速な情報共有により、個々のケースに応じた細やかな対応ができた。 ○生活相談シートにもとづく聞き取りや話し合いでは、一人一人の児童に寄り添った取組ができた。また、多様で複雑な問題にも、根気強く丁寧に保護者対応し、信頼関係を築くことができた。 ○あいさつ名人の取組により、今年度もあいさつ運動を推進することができた。	◎生徒指導委員会、アイアタイム、生徒指導台帳を通して、今後も迅速な情報共有を目指す。しかしながら、限られた放課後時間という視点も忘れず、アイアタイムを2月に1回にするなど、それぞれの運用の仕方についても検討していく。 ◎不登校問題について、効果的な支援を短期間でするのは中々難しい。保健室に頼りすぎない体制づくりや、専門家との意見交換を積極的に行っていく。	・不登校問題については、一朝一夕で解決する問題ではない。寄り添うことを大前提としながら、担任だけでなく、全ての先生方で情報を共有しながら、SCやSSWなど専門機関とも連携し粘り強く取り組んでほしい。また、不登校になっている子どもの家庭こそ、明るく過ごしてほしい。 ・学校で出会った時や普段の登下校など、あいさつを本当によくしてくれる。
			問題行動・不登校への対応	3.9(+0.4)		3.4(±0)				
		あいさつ運動	4(+0.2)	3.7(±0)	3.2(+0.1)					
		言葉づかい	3.5(+0.2)	3.4(-0.1)	2.9(+0.1)					
19 20	ケ	情報教育	ICT機器の活用	3.5(+0.2)	3.7(NEW)	3.2(NEW)	B	○今年児童のクロームブックを使用する機会が増えてきている。授業の中で活用することも増え、タイピングを含め使用スキルの上を担った取組ができた。 ○折に触れ、クラスルームの活用の仕方やSNSの使い方などについて指導し、ルールやマナーを児童と共有することができた。	◎プログラミング教育の時間を確保するため、鼓笛を含めた総合的な学習の時間の在り方を見直ししていく必要がある。 ◎月1回以上の、ICT支援員活用に向けた取組を継続していく。 ◎デジタルリテラシーにもとづき、情報モラルの指導を行う。	・某おすし屋さんの出来事が起こる世の中にびっくりする。そういった意味でも情報モラルをしっかりと養ってほしい。
			情報モラル	3.1(-0.2)	3.5(±0)	3.1(-0.1)				
21 22	コ	人権教育	人権態度の育成、豊かな人間関係、 福祉の心、思いやりの心の育成	3.4(-0.1)	3.7(±0)	3.4(+0.1)	B	○コロナ禍ではあるが、ゲストティーチャーを招く体験活動を通して、福祉の心、思いやりの心を育成する機会が持てた。 ○うれしかったタイムやあいさつ運動、人権集会などの全学的な取組ができた。また、人権作品を制作する過程で人権について考える機会が持てた。 ○生徒指導台帳やアイアタイム、気になる児童の情報交換が定着している。職員全員で、関わりを持っていくこととする意識が持っている。 ○学校行事や授業など様々な場面で、自尊感情を高める指導に努めることができた。	◎コロナ禍ではあるが、少しずつ体験活動の機会が増えてきた。町のバスも活用しながら積極的に進めていきたい。 ◎全学的な取組や全職員での情報共有、個別の関わりは今後も継続していく必要がある。 ◎児童の自尊感情の向上や人権意識を高めていくために、今後も継続して日常的な声かけや授業での学び合いの場面に積極的に取り組んでいきたい。また、個々の良いところや、頑張りや認め合う学級づくりを目指したい。	・自尊感情を高める取組として、一人一人のお誕生日をお祝いするような取組はどうか。例えば、お誕生日の子どもの拍手を送るなど。(各教室で)保護者もしっかりと子どもの誕生日を祝いたい。 ・「あなたは、友だちや困っている人にやさしくしていますか。」という質問に対し、「3.7」という9割以上の子どもが「そう思う」と答えているのはすばらしい。
			自尊感情	3.5(±0)	3.2(-0.1)	3.4(+0.2)				
23 24	サ	安全・防災教育	安全意識 防災意識 校内の安全点検	2.7(-0.5)		3.4(±0)	B	○校内安全点検の点検場所を、学年暦で月ごとに交代しながら行った。様々な目線から点検箇所を見てチェックすることができた。 ○引渡訓練でクロームブックを活用し、不特定多数の接触を減らすことができた。 ○地震避難訓練では、通行不可を想定して訓練し、状況確認を意識することができた。 ○月に1回、登校指導と下校指導を行い、登下校の状態把握に努めた。週1回のミニ地区児童会で指導を行った。	◎防災に関して、子ども達の自主性を高められるように、防災学習の内容を考えていきたい。 ◎班長の交代時期である3、4月に登校旗の指導を行う。 ◎交通安全教室で登校班で歩行訓練を行う。	・お金を伴うので難しいとは思いますが、よいよい環境作りを目指してほしい。 ・南海トラフが心配。休み時間や授業中など様々な形態で避難訓練をしてほしい。語り部の話を聞くような機会があってもいいかもしれない。 ・耐震補強や停電へのインフラ整備など、防災意識を高めることが、町や学校として必要である。
			登下校状態の把握と指導 安全な登下校	3.5(+0.2)	3.7(-0.1)	3.4(-0.1)				
25	シ	環境	環境設備の整理と 環境づくり	3.2(±0)		3.4(±0)	B	○プール、教室の床、窓など、修繕箇所が多く、今年度にはできていないところがある。 ○学級経営研修などで教室や特別教室は整理整頓するなど、学習に集中できる環境づくりを進めている。 ○ICTを活用した授業づくりにより、掲示物もデジタル化されてきた。このため、学習に必要なタイミングで見ることができるようになってきた。	◎本年度活用したデジタル資料は、必要なときに取り出せるように学校として蓄積・整理しておきたい。 ◎施設の修繕については、引き続き要望としてあげていく。	・お金を伴うので難しいとは思いますが、よいよい環境作りを目指してほしい。
26 27	ス	保護者との連携	通信やHPでの情報発信	3.8(-0.1)	3.5(±0)	3.3(-0.1)	A	○家庭訪問、個別懇談など、保護者と教育目標・課題を共有し、取組を進める機会を持っている。 ○保護者アンケートをはじめ、丁寧な連絡を取り合うことなどにより、保護者との信頼関係を築いている。	◎HPや学校だより、学年通信などで学校の願いを伝えることを継続していく。 ◎コミュニティー・スクールにより、地域と学校をつなげる取組を進める。大学生や高校生、中学生、図書ボランティアに加え、こども園や子育てサークルなど各団体との連携をはかり、多様な世代の方とのつながりを図る。	・精一杯のことをしていただいている。 ・精一杯丁寧に配慮していても、なかなかその思いが伝わらない時もあり、保護者対応の難しさを感している。
			保護者や地域の意見をよく聞く	4(±0)		3.3(±0)				
28 29	セ	その他	学校が楽しい		3.6(±0)	3.5(±0)	A	○ほとんどの児童、家庭が、学校が楽しいと感じているが、学校が楽しくない・不満足の評価も一定数いる。子どもが困り感を伝えることができるよう、丁寧な関係づくりを行っている。	◎学習そのものを楽しもうとする児童の育成を図る。 ◎効率化によって失われたコミュニケーション力の育成機会を創出する。	・便利と効率化が先行してしまっている所もある。子ども達同士のコミュニケーションの場を創出するという意識が大切。 ・誰かに喜んでもらえる、認められるという実感が大切。「ありがとう」を感じるしかけをつくり、社会性を養う集団生活を送ってもらいたい。
			学校教育に満足			3.5(+0.1)				

90%達成の推移(前年度比) 5→12 7→11 0→2 ※印→質問内容が少し変更